



私の街こまつ



THE KOMATSU CITY COUNCIL NEWS



2026

5.1

NO.221

議会だより



令和8年度 当初予算全会計
1,156億9,370万円を可決

Contents

1月臨時会	2	常任委員会 審査報告	19
3月定例会	4	特別委員会 調査報告	21
市政Q&A		議決結果	22
代表質問・一般質問	6	活動ピックアップ	23
予算決算常任委員会総括質疑	16	議長の活動紹介	24

撮影者 小松大谷高等学校写真部 2年 辻野 岳空さん 撮影日 4月4日



市議会HP



マチイロ

令和8年第1回臨時会 1月19日

物価高騰対策を早期に実施するため、臨時会が開催されました。

予算案 1件
補正額 17億7,600万円

会派自民



東浩一 議員



動画でチェック

◆小松市プレミアム付商品券いい街こまつプレミアム予算13億9,900万円について

Q プレミアム付商品券の内容について。

A 1冊2,000円で販売し、3,000円分の利用ができる商品券を10万冊、1万円で購入し、1万5,000円分の利用ができる商品券を7万冊発行する予定。販売額総額9億円の約2割となる2億円分を2,000円で、残り8割となる7億円分を1万円で購入する予定で、最大4万5,000世帯が購入可能な規模である。

Q 今回の商品券の発行規模、経費について。

A 今回の事業の予算額は13億9,900万円で、商品券の換金分は13億5,000万円、発行に係る経費は、4,900万円となる。

Q 購入者への対応と店舗からの利用代金の請求申請に係る件について。

A 市民には、6月頃に購入引換はがきを全世帯へ発送、販売場所は郵便局や大型商業施設などを予定し、1世帯当たり最大2万円まで購入ができる。はがきには2,000円単位の枠を設け、複数回に分けて購入することも可能。

取扱店が換金する方法は、商品券に付属するQRコードを活用し、市から換金額が支払われる仕組み。

Q 地元商店街や飲食業、中小・小規模事業者やサービス業など地域経済への還元と活性化について。

A 商店街との連携事業、イベント等への補助金などは現在予定していない。今回の商品券の利用者をどう引き込むかは、各店舗や商店街での創意工夫に期待し、市としては市全体のにぎわい創出につながるよう、市民や事業者と共に取り組んでいく。



吉柴文悟 議員



動画でチェック

◆自治体マイナポイントによる物価高対策(2億9,200万円)

Q 4月から開始する「生活応援自治体マイナポイント」と現行制度の違いは何か。

A 現行は現役世代の負担軽減が目的だが、今回は物価高の長期化を受け、市民生活支援の色を濃くし、高校生や高齢者へも対象を拡大した。

Q スマートフォンを持たない高齢者層への対応は。

A ポイントを付与できる電子マネーカードがあれば

家族等のスマートフォンからも申請可能であり、本市のサポート窓口等での申請も周知していく。

Q 若い世代が高齢者の申請を手助けする、多世代共助の仕組みを構築してはどうか。

A まずは現在のマニュアルの改善や市の窓口での対応を徹底していく。

Q 予算に余剰が生じた場合、未使用予算はどのように活用する方針か。

A 過不足が生じた場合は、令和8年度当初予算で計上する対策も含め柔軟に対応し、1円でも多く市民の皆様の手へ渡るよう、有効に活用する。

◆いい街こまつプレミアム(13億9,900万円)

Q 商品券の購入手段が現金のみだが、クレジットカードなど多様な決済手段に対応する予定はあるか。

A 販売額の相当数が1万円単位であることに加え、決済手数料による運営コストの増加が見込まれるため、現金払いに統一している。

Q デジタル枠の試験的導入など、紙とデジタルのハイブリッド運用についての見解は。

A 一部デジタル化した紙の商品券事業と、完全デジタルのマイナポイント事業を両方実施することで、デジタルとアナログの特性を生かしている。今後とも幅広い市民層に配慮して検討していく。

小松志士の会



濱口淳也 議員



動画でチェック

◆国からの物価高対策自治体マイナポイントについて

Q 携帯電話が対応していない場合の対応は。

A 4月から予定している生活応援自治体マイナポイント事業では、スマートフォンを所持していない方でも、カード型の電子マネーWAONや楽天Edyについては対応可能。その場合は、家族や友人のスマートフォンからマイナポータルで申請を行ったり、本市のサポート窓口等のパソコンを利用したりすることで申請が可能である。

Q 市役所では個別相談形式の窓口を設置し、1日当たりおおよそ50件程度の相談があると伺ったが、南部地域の方々の利便性を考えると、南支所にも相談窓口を設けることができないか。

A 多くの方の来庁が見込まれることから、南支所にもサポート窓口を開設し、体制を拡充していきたいと考えている。

Q 小松市のLINEで、トチポやマイナポイントに関する案内は何度も配信されているが、目を引く題名をつけるなど、工夫した周知方法を検討できないか。

A 一人でも多くの方々に周知できるよう、広報担当部門とも連携して検討していきたい。LINE等で

3月定例会

会期〈2月24日～3月24日〉

2月24日 開会

市長提出議案

予算案 17件

条例案 10件

その他議案 7件

3月 4日 代表質問 (3人)

一般質問 (3人)

5日 一般質問 (7人)

6日 一般質問 (4人)

11日 予算決算常任委員会総括質疑

12日 } 各常任委員会 (分科会)

13日 }

16日 特別委員会

19日 予算決算常任委員会

24日 閉会

議員提出議案 4件

※議案等の採決結果 (P22参照)

条例案等をチェック (P20参照)

市長から提出のあった条例案やその他の議案については、各常任委員会で審議されました。

予算案をチェック (P19参照)

市長から提案のあった予算案については、予算決算常任委員会で審査されました。

令和8年度当初予算

会計名		令和8年度 当初予算額	令和7年度 6月補正後予算額(※)	伸率
一般会計		576億8,000万円	547億6,030万円	5.3%
特別 会計	国民健康保険事業	88億5,190万円	89億790万円	▲0.6%
	介護保険事業	107億7,190万円	106億4,600万円	1.2%
	公債管理	75億4,410万円	63億5,220万円	18.8%
	産業団地事業	6億1,390万円	11億8,680万円	▲48.3%
	後期高齢者医療	24億2,720万円	20億3,320万円	19.4%
企業 会計	水道事業	41億400万円	38億4,390万円	6.8%
	下水道事業	111億4,570万円	118億7,360万円	▲6.1%
	病院事業	125億5,500万円	130億5,600万円	▲3.8%
全会計の合計		1,156億9,370万円	1,126億5,990万円	2.7%

※令和7年度当初予算は骨格予算のため、6月補正後予算との比較

令和7年度3月補正予算

会計名	補正額
一般会計	9億3,720万5千円
特別会計	3億2,100万円
企業会計	15億2,521万4千円
計	27億8,341万9千円

令和7年度

一般会計の累計 594億8,201万5千円

全会計の累計 1,196億7,422万8千円

議員提出議案をチェック (議決結果はP22参照)

議員から提出された議案のうち意見書については、可決された意見書を、内閣総理大臣をはじめ、関係機関に送付しました。

- 議案第1号 北朝鮮による日本人拉致問題に対する理解を深めるための広報啓発を推進することを求める意見書
- 議案第2号 重度障害者の地域生活を支える制度の充実を求める意見書
- 議案第3号 巨大災害発生に対する対応体制整備を求める意見書
- 議案第4号 太陽光発電設備のリサイクル推進及び適正な廃棄処理に関する意見書

本会議の討論 (P22参照)

橋本議員から以下の市長提出議案に対し、反対討論がありました。

- 議案第2号 令和8年度小松市一般会計予算
- 議案第3号 令和8年度小松市国民健康保険事業特別会計予算
- 議案第7号 令和8年度小松市後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第22号 小松市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

常任委員会の構成が変わりました

昨年中、議員1名が辞職され、委員会構成に不均衡が生じていました。橋本議員の所属変更により、3常任委員会の委員数は表のとおりになりました。

	変更前	変更後
総務企画常任委員会	8名	7名
福祉文教常任委員会	6名	7名
経済建設常任委員会	7名	7名

information

小松市名誉市民 中田一於氏の特別展「銀と彩ー人間国宝《釉下彩》・中田一於の世界ー」が、小松市立本陣記念美術館にて5月17日(日)まで開催されています。ここで、いくつかの作品を紹介させていただきます。



《淡桜釉裏金銀彩草叢文鉢》2020年



《白銀釉裏銀彩悠苑飾壺》2023年



《淡青釉裏銀彩角鉢》2024年



会派自民
おもて やすし
表 靖二 議員

代表質問 一括質問

公立小松大学で IT人材育成を



動画で
チェック

◆公立小松大学にIT人材育成の学科を増設してはどうか

Q ウレシャス小松オフィスフロアに情報サービス系の企業進出が決まりそうであるが、公立小松大学の存在が大きいと考える。大学のパンフレット、サイト等を見ても、IT系人材育成をうたうものがないが、学科増設や積極的なPRが必要ではないか。

A 生産システム科学科の智能機械コースにおいて、情報科学や人工知能などを学ぶことができ、令和6年度の卒業生は、22%が情報通信業に就職している。学科の増設は、18歳人口減少による志願者確保及び経営上のリスクがあることから、新設ではなく、既存学科内でIT領域を強化することが重要と考えている。少人数体制でしっかりと教育していることや、卒業生の進路実績などが、より分かりやすく、魅力が伝わるような情報発信をしたい。

◆粟津駅周辺整備の今後について

Q 粟津駅前ラウンドアバウトが完成しつつあるが、今後の駅周辺の整備計画や周辺用地の活性化策（屋台村等）、駐車場整備について、どのような考えを持っているのか。

A 令和8年度は駅西側の樹木伐採や整地を行い、令和9年度から自由通路や駅西広場の工事に着手し、令和11年度に完成予定。屋台村等での活性化については、民間投資を誘発するための環境づくりに注力し、意欲ある事業者を後押ししたい。駐車場は、駅東広場に6台分を整備し、今後整備する駅西広場についても6台分を計画している。



粟津駅前ラウンドアバウト

◆学校給食無償化について

Q 令和7年の出生数は全国的にも過去最低の数字を示しており、

小松市の数字も同様である。小松市は令和3年から学校給食無償化を実施しており、市議会では国の負担を求める意見書を採択している。このたび国や県が認める、給食の無償化の内容について説明を求める。

A 市町村給食費負担軽減交付金は、公立の小学校に在籍する児童1人につき1か月当たり5,200円、本市では総額約3億円の交付を見込んでいる。令和8年度の児童生徒分の給食食材費は約5億7,000万円であり、国の交付金との差額は、引き続き市として負担し、無償化を継続していく。

◆向本折新産業団地について

Q 向本折新産業団地は、令和11年度末に完成の予定である。計画の概要、今後のスケジュール等はどうか。また、将来への財政・経済的な効果はどうか。

A 持続可能な地域経済の確立に向けた「産業ブースト計画」の核となる取組であり、これまでに測量や基本設計を完了した。今後は実施設計や用地取得を進め、造成工事に着手するとともに、企業公募を行う。固定資産税や法人事業税交付金等の増収といった直接的な効果だけでなく、雇用や定住が増えることでの経済効果も考えられる。

◆下水道使用料の改定について

Q 下水道会計は年間1億2,900万円余りの赤字である。今般、料金を改定するものであるが、その根拠理由はどうか。また、上下水道事業経営懇話会での協議の内容は、いかなるものであったか。

A 維持管理に必要な費用を使用料で賄えているかを示す経費回収率が100%に満たない状況であり、経費回収率の向上が国の交付金の交付要件にもなっていることから、経営懇話会にて使用料の適正水準を検討した。経営改善と利用者の負担感に配慮し、目指すべき最低限の目標である経費回収率100%を達成する、平均改定率14%が妥当であるとされた。



小松志士の会
なかにし はじめ
中西 肇 議員

代表質問 一括質問

希望ある小松を次世代に
つなぐための都市経営



動画で
チェック

◆令和8年度当初予算

Q 主要財政指標と将来の財政運営は。

A 本市の財政力指数は、令和6年度は0.65であり、県内では上から3番目となっている。実質公債費比率は、令和6年度決算で10.8%であり、近年は減少傾向にある。将来負担比率は、令和6年度決算では98.9%で、平成20年度の228.0%から健全化した。今後とも財政の健全性を維持しながら、Komatsu9プロジェクト等の未来への投資を進める。

Q 令和8年度の予算の特徴、ポイントは。

A 都市の発展と持続可能性の観点から予算編成を行い、過去最大規模の当初予算額となった。

新たな産業団地整備の準備や、子育て環境と教育の質向上への取組、未来型図書館等複合施設の整備や地域交通の再構築などの重点事業を計上した。一方で、下水道使用料の改定など、将来の経営環境を見定めながら、予算の執行を通じて持続的な成長と発展を目指す。

◆小松駅周辺の再整備

Q 小松らしさとにぎわいづくりは。

A 駅周辺では、ウレシャス小松に4社が進出し、分譲マンションやホテルの建設、町家のリノベーションも進んでいる。新幹線小松駅開業から2年が経過し、駅周辺の利用ニーズも変化している。市民交流プラザや市民公園等の利活用や、こまつ820ステーションの開館時間延長の検討を進め、魅力ある空間づくりを目指す。

◆木場潟に子育て拠点の整備

Q 木場潟公園東園地の整備と全国育樹祭の誘致は。

A 木場潟は、雄大な自然が溶け合う水辺空間であり、北陸随一の子育てフィールドになり得る。県は、令和12年秋の全国育樹祭の開催を見据

え、東園地第2期整備実施設計に着手予定。粟津公園内のいしかわ子ども交流センター機能の東園地への移設・整備についても、県と協議を進めたい。

◆未来を育む学びのリビルド

Q 小中学校の再編と市立高校の未来は。

A 本市が進める学校配置の最適化とは、子供たちが将来にわたり質の高い教育を受け続けられる環境を確保することを目的とする取組である。これまで、アンケート調査や地域住民、PTA等との意見交換を行ってきた。今後は、地域ごとの具体的な検討に向け、個別計画の策定に着手する。

市立高校の今年の出願者数は定員を下回っており、今後も減少が見込まれる。高校進学環境の変化や大学入試制度、進路の多様化等による社会環境の変化、施設の老朽化もあり、市立高校の在り方を検討する時期に来ている。令和8年度以降、市立高校の方向性を見いだしたい。

◆南加賀の地域医療の強化

Q 新病院が目指す急性期拠点機能とは何か。病院の基本計画の概要及び今後の事業スケジュールは。

A 急性期拠点機能とは、質の高い高度な医療を安定的に提供する病院の機能のことで、人口20万人から30万人ごとに1拠点整備するとされている。市民病院は、三次救急医療機関に準ずる病院として急性期医療を提供してきたことから、新病院においても、急性期拠点機能病院として整備を進めたい。

基本計画は令和7年度中に策定予定であり、新病院の規模は、258床。概算事業費は、総額で286.6億円を見込んでいる。令和8年度から基本設計に着手し、令和11年度から建設工事に着手、令和13年度中に新本館の竣工、その後、南館の改修や旧本館の解体等を行い、令和14年度中の事業完了を目標としている。



自民党こまつ
かわさき じゅんじ
川崎 順次 議員

代表質問 一括質問

挑戦しない市には未来はない。市長には小松市のため果敢に挑戦を！



動画で
チェック

◆令和8年度予算編成について

Q 一般会計予算案は前年度当初比7.2%増の576億8,000万円と大規模で、未来のための積極財政と捉える。市長が掲げる「小松を明るく、にぎやかに」を目指し、今後さらに積極的かつ果敢に財政出動を考えていくのか。

A 社会経済情勢の影響に加え、重点政策を束ねたKomatsu9プロジェクトを軸に予算編成を行った結果である。2040年ビジョンの実現に向け、未来へつなげる投資を進めていく。

Q 国の予算成立が新年度にずれ込んだ場合の市の予算編成への影響は。

A 一部の補助事業で着手が遅れる影響が考えられるが、事前準備を進めることで事業の進捗に影響が生じないよう対応したい。

◆小松空港周辺整備について

Q 民間企業のアリーナ建設計画が事実上頓挫しつつあると危惧するが、土地所有権を市に一旦戻すことも選択肢の一つ。空港周辺整備の目玉として再度チャレンジしては。

A 空港周辺プロジェクトの立案を踏まえ、買戻しについても検討したい。

Q 空港ターミナルビルへの県の行政庁舎の併設や、防災庁の誘致など県との連携は。

A Komatsu9プロジェクトの一つ「小松空港シン都心整備」について、県と連携し検討を進めたい。

Q 空港前インターチェンジの実現こそが空港周辺整備の鍵となる。設置についての考えは。

A 新たな玄関口であるインターチェンジの設置にチャレンジしたい。

◆産業団地整備と企業誘致について

Q 向本折産業団地の整備の現状は。

A 令和9年度の土地区画整理事業の認可を目指す。企業公募は造成工事と並行して行い、令和11年度未完了の予定。地場企業の事業拡大を支援するため、小規模区画のニーズにも対応できるよう配慮する。

Q 高市政権は危機管理と成長投資を戦略の核とし、AIや防衛、宇宙産業などへの集中投資をするとのことである。本市も成長分野の企業誘致をすべき。あわせて串産業団地の整備を要望する。

A 向本折地区の唯一無二の立地環境を活かし、国の成長戦略と連動した企業に対し、積極的な誘致活動を展開する。串地区の事業化に向けた体制も整える。

◆高齢者への対策、対応について

Q 今後の健康充実に向けた対応策は。

A スポーツや地域行事、趣味などの社会参加が健康寿命延伸に有意義であることを啓発し、病気や介護の予防への取組や生きがいづくりを一層充実させる。

◆外国人の不動産取得の規制について

Q 土地の円滑な運用の妨害を許さない法整備が急務である。

A 基地周辺など特に重要な土地については、しかるべき国の機能や機関を立地自治体に配置するなどの対応が必要と考える。

◆学校再編について

Q 学校再編は単なる統合だけでなく、最適な教育環境を整えるチャンスである一方、学校がなくなることへの保護者や地域住民の不安にどう説明するかが大切である。

A 子供たちにとって望ましい教育環境を最優先に、保護者や地域住民との対話を重ね、学校規模及び配置最適化の必要性について、十分な理解を得ながら丁寧に進めたい。

認定こども園だいいちの移転計画について



きむら けんじ
木村 賢治
議員

一括質問



動画でチェック

◆認定こども園だいいちの移転

Q 変更された完成予定はいつか。

A 令和9年10月の開園予定。

Q 地元からも指摘されている雨水環境について、対策は。

A 開発前後の雨水流量を比較調査した結果、駐車場だった敷地の約40%を園庭とすることで一定の貯水量を確保でき、従前より雨水の影響を低減できると判断。

Q 九谷焼など地元の文化を取り入れ、郷土愛の醸成を図っては。

A 九谷焼の陶板を室名プレートに使用し、子供たちの地域への愛着形成を図る。

◆避難所管理システムの導入

Q 現在の避難者名簿の作成方法は。それがどのように改善されるか。

A 現在は手書きで作成。新システムではQRコード受付で情報を入力し、迅速な把握と共有が可能となる。

Q 広域避難者や、車中泊・在宅避難者はこれまでどのように把握し、これからど

のように変わるのか。

A 広域避難者については、これまで情報整理が不十分で健康状態等の把握に課題があったが、県内同一システムにより、誰がどこに避難しているか共有できる。避難所外避難者の状況把握対策も検討している。

Q 避難所での通信環境の整備状況は。HAPSなどの新技術の導入は。

A 指定避難所には発電機を備え、市役所と消防に衛星インターネットを整備。今後は避難所への増設や、新技術の活用を検討する。

◆電子黒板の導入

Q 3年かけて全小中学校に電子黒板を導入予定であるが、どのようなものか。

A 65インチの据置型ディスプレイタイプで、OS搭載、タッチ操作可能な電子黒板を導入する。

Q 小中学生サミットやビブリオバトルの動画の共有に活用してはどうか。

A 授業以外の児童生徒会活動や学校行事などでも活用を進め、本市独自のICT活用モデルの構築を目指す。

◆地域公共交通の再構築

Q らく賃パスポートのスマホアプリ化の機能の詳細と、デジタルツールの統合や強化について、見解を問う。

A 購入から利用までスマホのアプリ上で完結する仕組みを、令和8年度導入する。また、アプリとバスロケーションシステムを連携し、情報を一体的に提供する予定である。

Q 公共交通の取組に関し、市民が実際に利便性を享受できるタイミングはいつ頃になる見通しか。

A 令和8年度に利便増進実施計画を策定し、具体的な施策や導入時期等を盛り込ん

でいく。先行実施できるものは速やかに取組を進めていく。

◆工事契約締結への電子契約導入

Q 電子契約の導入により具体的に何が変更となり、事務コスト削減効果はどう見込むか。対象業種と今後の進め方については。

A クラウド上で承認処理することで契約が成立し、印刷代や郵送代、人件費等の事務コストが削減され、印紙税も不要となる。令和8年度は工事関係から開始し、将来的には全ての契約へ段階的に拡大したい。

◆教育のDX化と電子黒板

Q 導入後、既存の大型モニターの運用方針と、教員の研修やマニュアル整備、サポート体制構築について問う。

A 既存モニターは電子黒板との2台体制で活用を考える。教員の研修等については、演習を通じた活用能力を目指し、また、より効果的なサポート体制を検討していきたいと考えている。



未来の交通アプリ（吉柴議員作成 AI イメージ画像）

デジタル活用で高める市民の利便性



よしば ふみお
吉柴 文悟
議員

一括質問



動画でチェック

農山村地域における観光資源の魅力アップについて



ふかた ひろとも
深田 博智
議員

一括質問



動画でチェック

◆観音下石切り場について

Q 地域全体の魅力アップにつながる考えは。

A 令和8年度秋頃に予定している日本遺産認定10周年記念事業のライトアップについては、国道416号沿いから視認できる石切り場を対象として検討を進めている。ライトアップにあたり、視点場から石切り場をより効果的に際立たせるために必要となる樹木伐採などの環境整備について、町内会や山林所有者、関係機関とも連携して取り組んでいく。今後も、小松市文化財保存活用地域計画における歴史文化遺産保存活用区域として、農山村地域のにぎわい創出と価値向上に取り組んでいきたい。

◆西俣キャンプ場について

Q 西俣キャンプ場の魅力アップにつながる考えは。

A キャンプ場内の木製の遊歩道橋の改修やトイレの洋式化など、安全性とサービスの向上を行い、利用者が安心して何度も訪れられるようにリピート利用の促進を図っていく。また、農山村地域の地元住民との交流を通じ

て、里山のにぎわいづくりと活性化を図りながら、都会の子供たちに里山の自然体験だけでなく、小松の文化や木育体験などのプログラムを提供し、小松を第二のふるさとと感じてもらえる機会をつくりたいと考えている。

◆大倉岳高原スキー場について

Q 大倉岳高原スキー場の魅力アップへの考えは。

A グリーンシーズンにおける施設利活用の課題解決に向けた糸口を探るため、令和6年度から令和7年度にかけて実施したサウンディング型市場調査では、立地条件や標高、気象特性を踏まえた現実的な運営手法の検討が必要との意見があった。グリーンシーズンの活用については、令和8年度の施設全体の総合調査を踏まえて検討を重ね、年間を通じて、にぎわうスキー場を目指していきたい。



誰もが暮らし続けられる生涯安心のこまつ



さいとう かずみ
斎藤 和美
議員

一括質問



動画でチェック

◆持続可能な相談支援体制の構築について

Q 専任の相談支援専門員を配置する仕組みについて検討しているのか。

A 提案のあった常勤専従職員を現場から基幹センターへ異動させることは、人材不足が逼迫している現時点では難しいと考える。今後も現在の相談支援体制を維持しつつ、相談支援専門員が抱える負担感や精神的負担について、課題整理し、改善策を検討していく。

Q 現在委託されている5つの相談支援事業所への委託料の増額について検討できないか。

A 令和8年度予算において新たに相談支援を担う人材の確保と育成に向けた補助制度を予定している。新たに常勤専従の相談員を配置した場合に補助する事業や、相談支援専門員の資格等の修了に対する奨励金制度も計上している。

Q 小松市全体で支え合い、誰もが役割を担う地域づくりについて。

A 地域が一体となり様々な地域課題について学び、支援する側・される側の情報収集、市民への制度周知、社会福祉協議会と協議をしながら、体制の強化を図っていく。

◆今江町における福祉機能を持つコミュニティ拠点の整備について

Q 用途廃止施設等を活用した、誰もが集えるコミュニティ拠点整備の提案について。

A 高齢者、障がい者、子育て世代を支える担い手が減少する中、地域資源を活用し、地域課題を地域で解決するコミュニティ拠点の役割は非常に重要である。また、地域コミュニティの醸成を市としても積極的にサポートすることで、持続可能な福祉体制を構築し、地域共生社会を目指していきたい。今江町には様々な社会福祉法人があることから、いずれかの法人が主体となり、関係団体と連携することで実現の可能性があり、「今江町ならできる」と思っている。また、市としても主体となる法人と連携しながら取り組んでいきたい。

高齢者が安心して暮らせるために！地域の未来を創る公園整備について



むらなか ひろし
村中 洋
議員

一括質問



動画でチェック

農業支援事業活用・地震災害時の災害時対策・支援



ひがし こういち
東 浩一
議員

一括質問



動画でチェック

◆老人クラブの活動について

Q 令和7年度と比較して、補助金は幾ら減額されたのか。その減額理由は。

A 令和8年度予算額は、前年当初比130万円減の1,820万円。会員数・クラブ数の減少と助成金の実績による減額である。

Q 会員数の推移は。

A 令和5年度から7年度にかけて、11クラブ、会員992人が減。

Q 減額ではなく、組織の活性化の支援強化が必要では。

A 老人クラブが地域で果たしてきた役割は大きく、必要な財政支援は維持していきたい。

◆東陵地区の公園整備事業について

Q 公園の現状と課題は。

A 東陵地区には公園・緑地が16か所あり、中央公園以外の利用者は減少している。施設の老朽化、樹木の巨木化による維持管理負担の急増が予想される。

Q 地域住民の意見や要望の把握は。

A アンケート調査や意見交換を行っている。

Q 再編による改善効果は。また、整備してよかったと実感できる公園づくりとは。

A 利用者ニーズに合わせた施設整備を行い、維持管理の軽減、利用満足度の向上を期待。持続可能な公園づくりを目指し、今回の整備が市内の先進事例になると考える。

◆東部児童センターについて

Q 空いている時間帯やスペースを地域活動に利用できないのか。

A 児童福祉法に基づく施設で、子供の自由な遊びの保障のため、大人の地域活動利用は原則できない。

◆小学校の防球ネットの設置

Q 設置状況と設置基準は。

A 23校のうち19校に設置。優先順位や緊急性などを考慮し設置している。

◆新基本計画実装・農業構造転換支援事業について

Q 共同利用施設の現状と事業内容及び自治体支援は。

A JA小松市は、共同乾燥施設を計6施設運営しているが、施設によっては整備後約30年が経過し、大半は耐用年数を迎える状況となっている。

国は、地域農業を支える老朽化した共同利用施設の再編集約・合理化への取組支援を令和11年度までの5年間でを行い、農業の構造転換を集中的に推進することとしている。補助率は、通常5割のところ、都道府県や市町村が8.3%を上限に上乗せした場合、国も追加で同額を補助し、最大で66.6%の支援が受けられる。本市も県と連携し、必要な支援を行いたい。

◆物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の高温等気象災害対策緊急支援事業について

Q 高温等気象災害への今後の取組は。

A 近年の異常な高温による、農産物の安定生産や農業者の健康への影響が懸念される中、本市は独自の支援制度で、ドロー

ンや生育を調整する照明機器など先端技術機器の導入支援を行っている。今後必要となる支援については、既存制度の拡充を検討したい。

◆災害時対策でのポータブル電源整備は

Q 整備補助金の内容と対象は。

A 地域自営消防隊装備費等補助金事業は、防火や救助・救護活動が目的であり、現行のあんしん器材の補助において、ポータブル電源は補助対象でないが、避難所運営に必要な資器材を支援することは市民の安心・安全につながると考えており、本市の地域防災計画の改定とその運用の中で検討したい。

◆地震火災等への感震ブレーカー普及支援は

Q 普及の現状、取組と、地震火災対策の予防・防災での重要性は。

A 令和6年度までの8か年で551件の感震ブレーカー設置の支援をしている。県の補助制度を活用した町内会などによる一括申請を推奨し、地震火災対策の柱に感震ブレーカーの普及を捉え、地域全体での普及へと、一歩踏み込んだ対策を講じる考えである。

小松市の新たな取組



うめだ としかず
梅田 利和
議員

一括質問



動画でチェック

◆小松市空き家対策の新たな取組

Q 空き家の現状は。

A 本市の令和6年度の空き家総数は2,016件、空き家率は4.2%であり、近年の空き家件数の増加はほぼ見られず、空き家率も減少傾向にある。そのうち危険空き家は138件確認しており、急増している。

Q 解体支援の強化について。

A 固定資産税減免制度を期間限定で設け、制度対象となる空き家を、定められた期間内に個人が解体した場合に、解体前と同等の住宅用地の固定資産税軽減措置を3年間受けることができる制度を創設するため、本3月議会に上程している。

Q 除却後の土地活用支援は。

A 定住・移住支援制度等の利用を促すことで土地活用の支援を行っている。また、老朽危険空き家跡地活用事業にて解体した後、地域の広場とした事例もある。令和6年には、小松市開発許可等の基準に関する条例を一部

改正し、市街化調整区域内の既存町内区域において、賃貸を除く分譲住宅地等の整備を可能とし、解体後の土地活用も支援する制度改正としている。

◆憩いの森の整備・活用について

Q 安全対策と施設管理について。

A 熊の出没に対する安全対策として、職員によるパトロールの強化や園内での音楽放送等を行っている。施設の維持管理については、職員が毎日パトロールをし、支障がある箇所については、その都度改善策を講じ、安心して御利用いただける環境づくりに努めている。

Q 市民の健康増進拠点としての再整備は。

A まずは熊対策が避けては通れない課題であり、安全性を高める工夫や対策により、被害を未然に防止することが重要である。その上で、周辺の都市公園等とのバランスを考慮しながら、地域の環境や利用状況に応じた最適な整備活用策を検討していきたい。

ふるさとこまつ応援寄附金
「3年で10億」に向けて戦略
の練り直しを!



よしもと しんたろう
吉本 慎太郎
議員

一括質問



動画でチェック

◆CMO（最高マーケティング責任者）に問う

Q 就任から1年。どのような戦略を立て、どのような施策を実行したのか。

A 新規返礼品の猛スピードでの開発・投入と、既存品のリブランディング（最適化）を行った。

Q 結果、目に見える実績はあったのか。

A 米の供給不安による受付停止などの逆風の中、約1億円の寄附を新たに創出することに成功した。

Q 令和7年度の件数・金額は。

A 2月末現在で、1万5,104件、3億2,917万1,000円。

Q 前年度からの推移は。

A 同時期と比べ、横ばいの状況。

Q 令和8年度予算額（歳入7億円）の積算根拠は。実情とかけ離れているのでは。

A 現状分析をしっかりと行った上で、高い志を持って取り組む。

Q 就任時の公約「3年で10億」必達に向けての思いと、これからの取組は。

A 既にある宝を多角的に発掘・展開する力と、市場に合わせて新たな逸品を創り出す力の両輪が必要と考える。

Q 小松の顔となる「この一品」を発掘するために、CMO及びマーケティング推進チームがアンテナを張り巡らし、あらゆる層への意見聴取を。

A 関係部局と連携し、全庁一丸となって取り組んでいきたい。

◆「居場所」をつくるとは

Q 市内における「ひきこもり状態」の方々の総数は。

A 総数の把握は困難であるが、子供の居場所は35名、大人の居場所は約120名が登録している。

Q 建設予定の未来型図書館に福祉的な「居場所」をつくと、市長は議会で述べられた。多くの方々が集う場所での居場所づくりは可能なのか、その意味するところを問う。

A 無理のない形で社会に緩やかにつながることができる場所を目指す。

◆国による学校給食無償化

- Q 給食費負担軽減交付金による支出減に伴う新しい政策の検討は。
- A 令和8年度は約3億円交付される見込み。Komatsu9 プロジェクトに活用していく方針。

◆危険・老朽・供用終了施設の解体

- Q この解体の概要について。
- A 今後の保全や改修に要するコスト、周囲への影響等を踏まえ、旧大杉青年の家等、7つの施設で解体を進める。
- Q バランスシート上の償却額・償却後建物の資産残高は。
- A 減価償却相当額は3億1,600万円、残存額は約1,200万円。多くの建物で償却期間を大きく過ぎていることから、市の保有資産の価値は大きく損なわれない。

◆空き家対策

- Q 小松市老朽危険空家除却後の土地への固定資産税減免の条例の概要は。
- A 対象となる空き家を解体した際に、解体前と同等の住宅用地の固定資産税軽減措置を3年間受けることができる制度。

◆国民健康保険税の改定について

- Q 令和8年度の見直し内容は。
- A 所得割は1.13%増、均等割は4,300円増、平等割は200円減。
- Q 国税に子ども・子育て支援納付金を上乗せするのはなぜか。
- A 国創設の子ども・子育て支援金制度は、全世代・全経済主体が子育て世代を支えるという、新しい分かち合いの仕組みであり、同じ考えの医療保険制度にて徴収する。
- Q モデルケースによる所得別国税の増額について問う。
- A 40歳夫婦、子供一人の場合、所得50万円は年5,600円、所得200万円は年25,200円の増額。

◆市民生活を守る政策が必要。制度改正、料金改定について

- Q 下水道使用料について、平均改定率14%の根拠と、2・3人世帯の場合の料金増額・率は。
- A 経費回収率100%達成に必要な改定率と試算。2・3人世帯では、改定率17%で月430円の上昇。

- Q 所有者等が明瞭でない倒壊寸前の空き家への対応は。
- A 空家等対策特別措置法や市条例に基づく措置により、空き家管理を指導している。
- Q 市街化調整区域等における空き家の利活用の相談体制や推進策は。
- A 市が窓口となり、空家等管理活用支援法人と連携している。今後も関係団体への周知を進めたい。

◆通学路等の交差点の除雪

- Q 国道・県道の通学路交差点部分に積まれる雪への対応は。
- A 国・県が管理する幹線道路では、特に堆雪量が多くなる。通学路の交差点については、国・県にあらゆる機会を捉え、通学する児童に配慮した除雪を要請していく。

◆防災対策

- Q 震度マップの改定内容は。
- A 最大震度を震度6強としていたが、震度7に改定する。
- Q 避難所管理システムを使っての地域との対応訓練は。
- A 説明や研修会を行い、積極的な活用を促したい。

危険・老朽・供用終了施設の解体について



かたやま しゅんじろう
片山 瞬次郎
議員

一括質問



動画でチェック

らく賃パスポートの料金改定について

- Q 高齢者予防接種等について、見直しを据え置いた場合の市の負担額は約140万円と聞いている。その見直し内容とは。
- A 自己負担額は、成人用肺炎球菌ワクチン定期接種は800円、胃・肺がん検診は100円増額となる。
- Q らく賃パスポート料金の改定予定内容は。
- A 月1,000円程度の増額を予定。
- Q 高齢者・学生のらく賃パスポート利用人数は。この事業は高齢者や学生にとって必要な施策であり、引上げの中止を求める。
- A 高齢者は282人、学生は630人である。適正な料金に見直すことで、サービスの安定、改善につなげ、持続可能な制度としていくことができると考えている。



らく賃パスポートの料金改定が予定されている



はしもと よねこ
橋本 米子
議員

一括質問



動画でチェック

日本こども歌舞伎まつりや古典教室について



はまぐち じゆんや
濱口 淳也
議員

一問一答



動画でチェック

◆歌舞伎のまち小松について

Q 日本こども歌舞伎まつりの課題は。

A 少子化や子供たちの課外活動の多様化などにより、出演者、とりわけ子供役者の確保が難しくなっており、事務局の負担も増大している。また、担い手となる指導者の育成確保や、安定した後継体制の構築といった持続可能な運営基盤の確立においても、大きな課題を抱えている。

Q 古典教室の課題は。

A 中学生の放課後の活動状況についても、塾や地域クラブ活動など、部活動以外の課外活動を行っている生徒が増加傾向にあり、古典教室に参加できる生徒は減少傾向にある。よって、稽古時間の確保や全役者がそろっての稽古が大変難しくなっている。子供たち、教職員が今置かれている状況から見て、古典教室を現状の当番校方式で継続していくことはますます厳しくなっていくものと考えている。

Q 今後について市長の答弁を。

A 子供たちが稽古を重ね、役者・長唄・はやし方・裏方が一体となって歌舞伎「勸進帳」を演じる、このことはふるさと教育の一環としての側面も大きく、教育効果もこの上ないものと感じている。

小松市の財産と言うべき伝統文化を継承するために、持続可能な上演方式の枠組み、新たなプログラムの設計、指導方法の構築、小学生から高校生まで上演者の幅を広げた上での体制づくりなど、協議を継続していく必要性がある。

令和9年度以降、再び皆様の前で子供歌舞伎の中でも特に「歌舞伎十八番の内 勸進帳」をしっかりと上演できるように、市としても教育委員会と、多くの市民の皆様とも連携をしながら、そして成田屋様にもこれまで以上に御協力も仰ぎながら、上演方法を模索していきたい。

被害者も加害者もゼロへの市のハラスメント対策



きのした ひろゆき
木下 裕介
議員

一問一答



動画でチェック

◆市職員を守るハラスメント対策

Q 2回目となる全職員を対象にしたハラスメント調査を実施した目的とその結果は。

A 前回から3年が経過し、効果検証と実態把握のため再調査した。回答は567件と全体の約30%で、パワハラを受けた44件、見た等72件といずれも前回の半分以下と大幅に減少した。セクハラは今回初調査で、受けた3件、見た等6件。結果は職員に公表し、早急な事実確認が必要な事案は聞き取りを進めている。

Q 結果を踏まえ、予防体制をどのように強化するのか。

A 任命権者ごとの相談窓口に加え、市民病院では外部窓口も設置し、早期発見・早期対応の体制を整備した。また、役職に応じた研修や懲戒処分等により、未然防止と抑止にも努めている。

Q 組織の長として職員の尊厳と安全を守る決意を聞かせてほしい。

A ハラスメントを許さない方針の下、実態調査や相談窓口の周知、被害者のケア、加害者への厳正な対応を行い、誰もが安心して働ける職場をつくることで、市役所への信頼とまちづくりの基盤強化につなげる。

◆栗津駅西の遊休地活用について

Q 民間投資が実現しない場合の代替策は検討しているのか。

A 民間主導の開発が前提だが、パークアンドライド駐車場の整備も考えられる。

◆養育費確保に向けた取組を

Q 市として養育費の立替えを行う考えはないのか。

A 養育費の不履行は深刻な問題と認識しているが、伴走型支援で対応し、立替制度の創設は現時点で考えていない。

◆ひとり親家庭の医療費助成

Q 子供は現物給付（窓口払い）だが、親はなぜ償還払い（後日払い戻し）なのか。

A 保護者分の助成は県の補助制度上、償還払いとされている。なお、償還払いには申請時に相談や支援につなげやすい利点がある。

Q ひとり親家庭は支援が必要であり、親にも現物給付の導入を求める。

A 現物給付では県の補助を受けられず、市単独で導入した場合の財政負担が大きく、課題も多い。

◆キョウチクトウ（夾竹桃）について

Q 強い毒性がある植物である。

A 花、茎、根など樹木全体に強い毒性を持っており、燃やした煙を吸い込んだり、ペットが口にしたりしないよう注意する必要がある。

Q 安宅海浜公園や市内にも植わっている。どうする？

A 安宅海浜公園にあるものは、潮風や塩害の苛酷な環境にも強く、防風林の代わりも果たすことから、植栽されたものである。正しい知識や注意喚起が必要だと考えており、市のホームページなどで周知を図っていききたい。



耐性もあるが毒性もある
キョウチクトウ

◆道路整備について

Q 震災の影響による道路整備は、町道であっても市で整備すべきではないか。

A 災害復旧支援の町道整備事業は、令和6年度末で制度は終了しているが、震災による影響で町道の損傷が見られる場合は、市へ相談していただき、現地確認の上、しっかり対応させていただきたいと考えている。

Q 道路整備の情報収集は、アプリやソフトを使ってDXで対応できないか。

A 近年では、全国的に道路維持管理分野においてもアプリによるデジタル技術の導入が進んでおり、周辺自治体の動向を見ながらアプリの導入を検討していきたい。これからもデジタル技術を採用して、業務の効率化を図っていききたい。

◆マイナンバーカード非対応機種の方への対応について

Q 非対応機種では、さまざまな恩恵が受けられない。市の施策として対応すべきではないか。

A スマホが対応していなくても、市役所や南支所に設置する窓口にてWAON等へのポイント付与ができるので、スマホなしでも対応は可能である。

キョウチクトウ
(夾竹桃)について



にった ひろゆき
新田 寛之
議員

一問一答



動画でチェック

◆カスタマーハラスメントについて

Q 件数と頻度は。

A 不当要求行為等に対応した場合に報告書の作成を義務づけしており、令和7年度は2件の報告がある。また、報告書の提出に至らないが該当行為につながるような事案が散見されることも認識している。

Q 対応マニュアルは作成済みか。

A 平成30年に策定、令和6年度に見直しを実施している。

Q カスハラへの対応策は。

A まず所属長へ報告し、個ではなく組織として対応を行う。居座り・暴言・暴力等のケースは警察に通報するほか、立入制限、立入禁止及び退去命令も行うことができる。

Q カメラや録音など物理的なセキュリティは。

A 各出入口に設置している防犯カメラにより、不当な要求者への牽制と万が一の事案発生時の客観的証拠の確保を行っている。

Q 職員の相談窓口はあるのか。

A 一般的な対応について総務課が相談のほかに、全庁横断的な「行政トラブル連絡会」を開催し、カスハラ対策に活かしていく。

◆定住・移住の住環境施策について

Q 支援補助制度の種類と実績は。

A 主な制度と過去5か年の実績は「ようこそ小松定住促進奨励金」534件、「3世代家族住宅建築奨励金」313件、「飛行場周辺地区居住環境整備助成金」248件である。

Q 支援制度の充実度は。

A 定住・移住者は平成30年度99名から令和6年度162名と増加。

Q 空き家の活用方法は。

A 条例改正を行い、市街化調整区域で従来できなかった、賃貸借等による専用住宅・戸建て兼用住宅・飲食店等の店舗活用を可能とした。

Q 子育て世代の支援施策は。

A 戸建て型の地域優良賃貸住宅整備と余剰地での民間事業者による宅地分譲整備を一体的に実施。

Q 那谷にも子育て住宅が欲しいが、今後の整備計画は。

A 市有地の跡地活用を含めた公共施設の全体最適化に取り組み、計画を積極的に進める。

カスタマーハラスメントと
定住・移住の住環境施策について



よしむら のりあき
吉村 範明
議員

一問一答



動画でチェック

予算決算常任委員会総括質疑

令和8年度当初予算

会派自民



高野哲郎 委員



動画でチェック

◆新病院建設費

Q 令和8年度当初予算の内訳として、基本設計3,850万円、設計支援業務3,170万円、医療系コンサル業務1,500万円が計上されているが、特に設計支援業務とは何か。

A 民間のマネジメント技術を活用し、ハード面における品質・コスト・工程の最適化を図ること。

Q 南加賀地区で一番頼りになる病院を目指すために、市長はどのように取り組んでいくのか。

A 診療報酬の改定においても医療資源の集約化が示されており、南加賀医療圏全体で支える医療の核となる病院を構築するため、加賀市・能美市だけでなく、県とも協議をしていきたい。

◆粟津駅周辺整備費

Q 予算の内訳は。財源と国の補助率は。

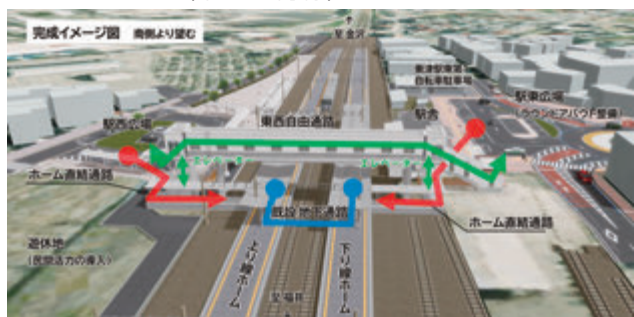
A 駅西側の造成費に9,880万円、レールなどの撤去と信号システムなどの施設改修費として1億120万円、自由通路などの調査設計費に3,100万円。財源は国土交通省の社会資本整備総合交付金を活用し、補助率は50%。

Q 鉄道施設、線路の撤去は市の負担となるのか。

A 駅利用者の利便性向上のために必要な工事と考え、市で負担することとした。

Q 自由通路とはどういう扱いとなり、駅利用者の導線はどのようになるのか。

A 東西自由通路は道路という扱いであり、切符を買いなくても行き来できる(下図の緑線)。東西それぞれにホーム直結通路を整備し、スムーズに行き来できるようにする(下図の赤線)。反対側のホームに向かうには、既設の地下道を利用して行くことができる(下図の青線)。



東浩一 委員



動画でチェック

◆地域交通推進費

Q パスロケーションシステムとは。

A GPSからバスの位置情報をリアルタイムで取得、分析し、スマートフォンやウェブサイトを通じてバスの接近情報や到着予定時刻を利用者に提供するシステム。本市では、3月15日のダイヤ改正に合わせてシステムの運用を開始したい。

◆らく賃パスポート運営費

Q 現状の利用状況と利用金額は。

A らく賃パスポートの対象者は、小松市に住民登録がある障がい者、65歳以上の高齢者、小松市に住民登録がある、もしくは小松市内の学校に通学している中学生・高校生・大学生で、利用者数は減少している。利用金額は、障がい者・高齢者は2,000円から3,000円へ、学生は3,000円から4,000円へ、令和8年度中に改定予定。

◆公共ライドシェア運行費

Q 南部乗合ライドシェア実証実験の拡大内容は。

A 月津・木場校下への運行エリアの拡大や、要望の多い南部エリアから近い医療機関や商業施設の追加、また学生が利用できるような通学時間帯への対応や、学校へのタブレット設置なども考えている。

◆地域公共交通再構築費

Q 新たな地域交通、公共交通アクションプランは。

A 地域公共交通利便増進実施計画を策定し、幹線バス路線の構築や、需要に応じた路線や鉄道と路線バスの接続を強化するダイヤの編成、オンデマンド交通と交通空白地への適材適所の交通手段の導入など、具体的な施策や導入の時期を盛り込み、15年後を見据えた計画をつくっている。

Q 中山間地などのエリア別交通体系とらく賃パスポートの活用は。

A 中山間地については、乗合タクシーや公共ライドシェア等のオンデマンド交通を導入し、幹線バスの拠点とつなぐことにより、交通空白などを解消したい。中山間地域在住の高齢者や障がい者、学生などは、幹線バス等コミュニティバスの拠点に何らかの形で移動ができ、そこから、らく賃パスポートのようなサブスク機能を使って移動を実現していくことが大事だと思っている。

自民党こまつ



深田博智 委員



動画でチェック

◆小松運動公園テニスコート等整備費

Q 既存設備の課題についてどう考えるのか。

A 利用団体からの声を受け、老朽化したネットの更新を予定しているほか、選手の皆さんが競技に集中できるよう、施設の維持管理についても万全を期したい。

Q 今後、利用者からの声をどのように取り入れていくのか。

A これまでも安全・安心な施設として利用していただけよう、テニス協会やソフトテニス協会をはじめ、利用者の要望等を踏まえて施設の機能向上に取り組んできた。今回の整備についても、競技団体や大会主催者等からのコート増設を求める声に応える形で整備を進めるものである。今後も引き続き、競技団体等との協議を重ね、利用者目線に立った施設整備に努めていきたい。



吉村範明 委員



動画でチェック

◆部活動地域展開推進費

Q 予算の内訳と増額理由は。

A 本予算は、消耗品、指導者への謝金、会場使用料、保険料等、地域クラブ活動に必要な経費を積み上げて予算計上したもの。活動するクラブ数の増加等により予算は増えており、令和7年秋以降の土日・祝日の部活動地域展開開始に伴い、受皿となるクラブ数の増加や、令和8年度予算においては、さらに受皿となるクラブ数の増加と、秋から予定している文化部の地域展開実施を見込んでいるため。

Q 地域性を含めた地域展開の考え方は。

A 全ての生徒が等しく希望する競技を楽しむことができる機会を提供することが地域展開の目的の一つである。通常は近隣地域のクラブに参加することになると思われるが、状況に応じて別の地域のクラブに所属することも可能である。

Q 今後の展開は。

A 平日の地域展開について各種目別競技協会や受皿となっている地域クラブと協議を行い、文化部についても、令和8年秋の土日・祝日の地域展開の実施に向けて取組を進めている。

Q 移動手段の考え方は。

A 今後、文部科学省のガイドラインに示されている関連部署との連携などについて検討を進めたい。

◆公共ライドシェア運行費

Q 詳細は別議員の質問から確認できた。部活動地域展開に係る移動について最良手段は。

A 路線バスやコミュニティバス、乗合ライドシェア等公共交通と共助版ライドシェアなどのボランティア輸送を組み合わせる移動することが望ましいと考える。検討が進み、具体的な方法を検討する段階になれば、ご相談いただき、市としてもしっかりと対応していきたい。

無 会 派



木下裕介 委員



動画でチェック

◆介護人材確保・職場環境改善支援費

Q 今回創設された介護支援専門員(ケアマネジャー)の資格取得支援補助金制度の目的は。

A ケアマネ等の資格取得を支援することにより、介護人材の確保と介護サービスの安定供給を図る。

Q 今回の資格取得支援に加え、今後はケアマネの定着支援として更新研修費用への支援も必要と考えるが見解は。

A ケアマネの高齢化と成り手不足を踏まえ、まずは成り手を増やすための「入口支援」を重視し、更新費用への支援は考えていない。国は2027年度改正に向け、更新制度の廃止を検討している。



片山瞬次郎 委員



動画でチェック

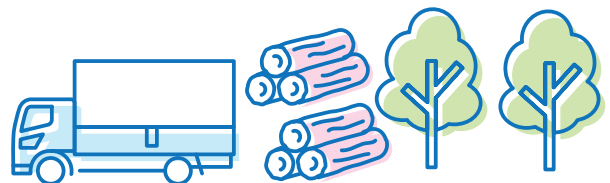
◆市行造林費

Q 市行造林が直面する課題は。

A 事業規模は、93団地576ヘクタールであり、令和9年には、造林開始から50年間の契約期間満了を順次迎える。相続手続が未了の団地や、伐採後の再造林に係る費用を差し引いた収支の採算が見込めない団地が出てくるのが想定される。

Q 経営に適さない造林団地とは。

A 土地の傾斜が急過ぎて、主伐等の作業効率が極端に低下する団地や、アクセスが悪く、木材の運搬作業コストが上昇する団地などでは、収支の採算が取れないと考えられる。





橋本米子 委員



動画でチェック

◆未来型図書館等複合施設整備費及び未来型図書館づくり推進費

Q 1年目の整備内容及び推進費の業務内容は。

A 整備費については、基本設計や実施設計費の一部、モニタリング業務等である。推進費は、事業者選定や契約等の手続きに係る業務費を計上。

◆こども誰でも通園制度費

Q 利用見込児童数や受入れ体制、利用料について。

A 令和8年度は約40人程度と予測。実施希望園の空き定員での受入れを予定しており、クラス担当の保育士が在園児と合同で保育を行う。利用料は、各事業者が決定する。

令和7年度3月補正予算

小松志士の会



宮西健吉 委員



動画でチェック

◆芸術劇場大規模改修費

Q 平成16年にオープンした施設の概要、目的は。

A 歌舞伎等に対応できる大ホールをはじめ、小ホール、催事場等を備えている。優れた芸術、文化を享受できる機会や活動の発表の場を提供し、活力あるまちづくりに資することを目的に設置。

Q 今回の大規模改修の内容について。

A 基幹設備を計画的に更新し、施設の長寿命化を図る。舞台照明や音響設備については、デジタル機器に全面更新し、表現の高度化、多様化につなげる。また、客席は前後で交互に配置する千鳥配置を採用し、観光物産案内所跡には、可動式パネルで空間を仕切れるギャラリー兼会議室を新設。

Q 演じる側、観る側の意見に十分に対応しているのか。

A 来場者アンケートや、主催者からの意見が直接届く指定管理者からの要望を踏まえている。

Q 工事期間中、市民センターやサイエンスヒルズで対応できるのか。

A 休館時期は、利用者が最も多い秋期を避けた設定とした。代替施設として、市内及び近隣自治体の施設を案内している。

Q 22億4,000万円余を投資する中で市長の思いは。

A 小松市の文化拠点としての価値を次世代水準へ引き上げていくための未来の投資として位置づけている。



木村賢治 委員



動画でチェック

◆通学路整備費

Q 通学路整備費が約74%も減額される理由は。

A 国の防災安全交付金の内示額に合わせて、市の予算を減額した。

Q 国の交付金を前提とすると不安定さを覚えるが。

A 路線の必要性や重要性を示し要望しており、今後も交付金の要望額確保に努める。

Q 通学路予算を優先的に支出する考えはあるか。

A 通学路整備費は別途予算費目として設定しており、重要な予算。交付金は様々な道路整備を対象にしており、通学路整備を含め交付金確保に努める。

Q 実施予定、実施中、年度繰越しのものは。

A 当初11路線を予定していたが、内示額の減により7路線を整備。残りは令和6年度繰越し予算の余剰分などで対応し、進捗に大きな遅れはない。

Q 事業継続中のものへの影響は。中止は。

A 一部未着手箇所は令和8年度の対策箇所として整備を進める。未整備のまま中止することはない。

Q 緊急性のある箇所への対応は。

A 緊急性を要する場合は、通学路整備とは別に道路管理者として早急に修繕対応する。

Q 通学路安全プログラムの結果は公表しているか。

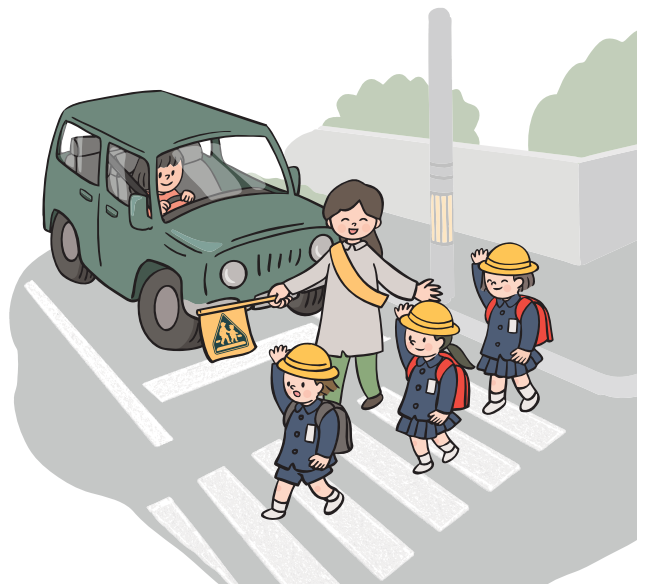
A 市ホームページで実施状況を公開し、危険箇所や対策状況を毎年度公表している。

Q 掲載時期は。

A 毎年度、年度末に掲載している。

Q 通学路は安全と言っているか。

A 絶対安全と言い切れるものではなく、危険を一つ一つ取り除きながら安全確保に努める。



常任委員会 審査報告

予算決算常任委員会

議案第2号 令和8年度小松市一般会計予算について

■総務管理費寄附金（702,000千円）

ふるさとこまつ応援寄附金としての歳入であり、内訳は、個人版7億円、企業版200万円です。個人版については、Komatsu9プロジェクトに掲げる、ふるさと納税10億円達成に向けた二年目の金額として、計上しているとのこと。

今年度のふるさと納税額は、前年度と比べて横ばいの見込みとのことですが、近隣自治体では、前年度比20%増を達成している事例もあり、実施の在り方や返礼品等によっては、本市も金額を伸ばすことができる可能性があるため、他の自治体も参考にしながら、戦略の練り直しを図る必要があるのではないかと意見がありました。

■職員人件費について

正規職員及び会計年度任用職員にかかる人件費であり、令和7年の人事院勧告による給与及び期末・勤勉手当の増額等により、昨年度と比べて全体的に増額となっているとのこと。

土木及び建築の技術職については、今年度、採用予定人数に達していないことから、年齢構成のバランスが偏らないよう、計画的な人材確保に努めてほしいとの意見がありました。

また、令和7年5月から採用しているCMOについては、次年度は評価が問われる年であるとの意見がありました。

■結婚支援費（14,000千円）

若者の結婚サポートを支援するため、婚活相談などの結婚サポート支援や、若年世帯の定住を促進するための新婚住まい応援金に係る費用です。

セミナーの回数を更に増やしたり、高騰している住宅建築費を引き続き支援することで、小松市での結婚、定住を促進してほしいとの意見がありました。

■総務管理費雑入のうち、パスカード発行収入（17,000千円）

らく賃パスポートの発行による収入です。

一部の委員からは、料金の引き上げが検討されていることに対し、路線バスは高齢者や学生の方にとって大切な足であるので、引き上げをすべきではないという意見がありました。

■マイナンバーカード等普及促進費（38,312千円）

マイナンバーカードの交付や管理に係る費用です。

本市のマイナンバーカード取得率は80%を超え、既に広く普及していることから、今後は普及促進よりも保有者に対する市民サービスの向上に軸足を移し、事業

名称も見直すべきではないかとの意見がありました。

■発達支援費（2,749千円）

発達支援センター「えぶりい」の運営に要する費用です。5歳児健康診査を踏まえた年長・年中児を対象とした小集団指導教室の取組は、集団生活への適応や、保護者が子供の特性に対する理解を深める良い機会でもあることから、費用増額を含め積極的に進めてほしいとの意見がありました。

■自立支援給付費（2,880,316千円）

障がい福祉サービスや補装具の給付、自立支援医療の給付に係る費用です。

そのうち就労支援に関して、A型事業所から一般就労へ移行する際の雇用契約については、障がい者の方に寄り添った柔軟な契約内容となるよう、市がハローワーク等関係機関と協議してほしいとの意見がありました。

■小学校校舎等改修費（632,584千円） 及び中学校校舎等改修費（52,388千円）

校舎の空調復旧工事や照明LED化実施設計、トイレ改修工事等の費用です。

なお、小中学校の体育館の空調設置については、令和8年度以降に策定予定の学校配置最適化の個別計画とも整合性を図りながら、今後設置を検討していくとのこと。避難所としての機能も有していることから、計画的に整備を進めていくよう求める意見がありました。

■学校体育・健康教育推進費（25,650千円）

児童・生徒の体力向上・スポーツ振興に係る費用です。今年度から開始した小学校の水泳授業の外部委託については、令和8年度には実施校を3校増やし、9校で実施予定とのこと。今後、実施校の増加に伴い、移動手段となるバスの確保や、施設における指導員の確保といった課題も想定されますが、せっかく充実してきた水泳授業を廃止することがないよう、長期的な観点で事業を進めていくよう求める意見がありました。

■部活動地域展開推進費（37,832千円）

中学校部活動の地域クラブ活動展開における外部指導者の謝金等の費用です。

部活動の地域展開が進み、従来の学校を中心とした活動形態が変化する中で、部活動に参加しない生徒の増加が懸念されることから、今後、部活動を通じて行われてきた生徒指導の部分をどのように代替していくかを検討する必要があるとの意見がありました。

■栗津駅周辺整備費（231,000千円）

自由通路や駅西広場の整備による駅東西のアクセス強化、駅東側の交差点のラウンドアバウト、駅施設の2方向利用など、栗津駅周辺の活性化や利便性向上に向

けた整備に係る費用です。令和8年度は、自由通路の建設に向けた準備のため、駅西側の樹木伐採や整地を行い、令和9年度から自由通路、駅西広場の工事に着手し、令和11年度に完成予定とのことです。

■自転車駐車場管理費（12,354千円）

小松駅・明峰駅・粟津駅の駐輪場における自転車の整理や、監視カメラの設置等に係る費用です。監視カメラは3駅で合計22台設置されており、経費は580万8千円とのことです。監視カメラ設置の主な目的は、犯罪の抑止であり、自転車の盗難があった際の確認にも用いるとのことです。

夜間は駐輪場が暗く、部活や塾で帰宅が遅い子供にとって危険であるとの声が市民から寄せられていることから、監視カメラの設置をアピールすることで、治安を保つためにも有効に活用してほしいとの意見がありました。

■通学路整備費（30,500千円）

通学路交通安全プログラムに基づき、歩道や側溝の改築、路面標示や防護柵といった安全施設の設置など、通学路の安全対策工事を行うものです。

児童の安全確保につながることであり、今後も進めてほしいとの意見がありました。

議案第11号 令和7年度小松市一般会計補正予算（第7号）について

■芸術劇場大規模改修費（400,000千円）

施設の長寿命化及び機能向上のため、令和8年12月から令和9年7月にかけて、大規模改修工事を行うものであり、全体経費は、22億4,257万円の見込みです。

歌舞伎の舞台としてだけでなく、公会堂解体に伴う音楽団体からの需要もあることから、音響設備についても、十分検討してほしいとの意見がありました。

総務企画常任委員会

■議案第22号 小松市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について

国民健康保険税の将来的な県内完全統一や、適正な国保運営の維持、継続等を目的に、税率の改正を行うものです。また、子ども子育て支援法の改正に伴い、「子ども・子育て支援納付金」を課税区分に新たに定めるものです。

一部の委員からは、保険税の値上げや子ども・子育て支援納付金課税額の追加に対し、反対する意見がありました。

■石川県知事選挙について

3月8日執行の石川県知事選挙について、主な取組や投票の状況等の報告があり、小松市内における投票率は53.05%であったとのことです。

当日投票所の変更を行ったことによる影響の有無について、今後、投票所ごとの投票率の分析を進めてほし

いとの意見がありました。

また、郵便等による不在者投票について、手続きを簡素化できるよう、国に働きかけてほしいとの意見がありました。

■第4回小松空港ターミナルビル基本構想検討会議について

昨年度、小松空港の在り方を示す小松空港中期ビジョンが策定されたことを受け、今年度は小松空港ターミナルビルの基本構想を取りまとめることとなっており、第4回の会議では、基本構想の最終案についての検討が行われたとのことです。

今般、知事の交代もあることから、ターミナルビルの整備及び防災庁の誘致については、空港所在市である小松市が声を大にして、確実に遂行できるよう県へ訴えてほしいとの意見がありました。

福祉文教常任委員会

■小松市学校規模及び配置最適化基本方針（案）に係るパブリックコメント実施について

小松市学校規模及び配置最適化基本方針（案）について、広く市民等の意見を聴取し、方針策定の参考とするため、パブリックコメント手続きを実施するものです。

パブリックコメントの実施方法については、これまで重要施策のパブリックコメントについても集まってくる意見が多くないことから、教育委員会に限らず、市全体として、より広く市民から意見をいただける仕組みづくりを進めることが望まれるとの意見がありました。

■移動図書館車「みどり号」さよならセレモニー等について

昭和60年から40年にわたり、小学校や各施設を巡回してきた移動図書館車「みどり号」の運行を終了することに伴い、最終巡回先となる国府小学校において、さよならセレモニーを実施するものです。

車両の老朽化や利用者数の減少に加え、市立図書館の蔵書を児童生徒の希望に応じそれぞれの学校に配送する体制が整備されていることなどから、廃止に至ったものです。

■小松市民病院建設基本計画について

令和14年度中の事業完了を目指して整備が進められている新病院について、担うべき機能や規模、施設・設備等を具体化するための諸条件を、整理・取りまとめた「小松市民病院建設基本計画」の概要が示されたものです。

急性期拠点機能を担う南加賀の拠点病院として、南加賀3市が相互に協力し、連携の在り方について協議を重ねながら、南加賀の医療体制を着実に維持していくよう進めてほしいとの意見がありました。

経済建設常任委員会

■議案第20号 小松市公共下水道条例の一部を改正する条例について

赤字が続いている下水道事業について、国から経営改善を求められていることから、小松市上下水道事業経営懇話会の意見を踏まえ、下水道使用料を平均14%引き上げるものです。条例施行後、本年9月検針分の使用料から適用することです。

近隣の市でも値上げの動きがあることから、今後も他市の動向を注視してほしいとの意見がありました。また、今般の中東情勢の悪化に伴い原油価格が上昇し、市民生活にも影響が出始めている中で、今後も事業運営について慎重な議論をされるよう求める意見がありました。

■栗津駅前ラウンドアバウト整備工事について

栗津駅前交差点において、歩行者及び車両の安全性向上のため導入されることになったラウンドアバウトについて、昨年8月より行っていた工事が、3月末をもって完了する運びとなったことです。

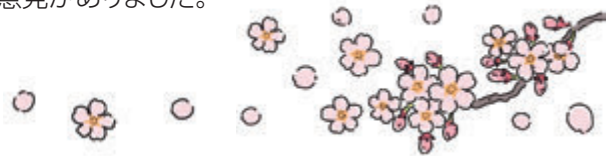
ラウンドアバウトの車での走行方法について、社会実

験を行っていることや、すでに広報や市ホームページで案内をされているとのことですが、誤って逆走や駐車車をされると非常に危険であることから、交通ルールの周知を徹底するよう求める意見がありました。

■芦城公園の花見について

昨年より、ぼんぼりを廃止してLED灯具に変更されましたが、足元が暗くて危ないという意見があったことから、今回より、フットライトを導入することです。また、公会堂の解体工事は、花見時期の前には完了しますが、工事用の仮囲いは残ることになるとの報告がありました。

フットライトを設置することを周知した上で、安全に通行するために必要なフットライトの数について、引き続き検討してほしいとの意見がありました。また、子供連れが多く訪れるため、トイレの案内表示や、公会堂跡地には入らないよう注意を促す看板の設置をしてほしいとの意見がありました。



特別委員会 調査報告

小松基地・空港対策特別委員会

■在日米軍再編に係る訓練移転について

現時点で小松基地における訓練計画はないとのことですが、訓練計画については、速やかに情報提供するよう求めました。

■令和8年度空港・基地政策課の事業概要について

空港・基地政策課が所管する空港の活用や活性化促進、基地周辺地域に対する各種施策について説明がありました。

主なものは、羽田便を利用する首都圏からの旅行商品の造成などに対して支援を行うための小松空港協議会への負担金、騒音区域105町内で組織する小松飛行場周辺整備協議会への交付金、騒音区域内の個人住宅新築に対する助成、コミュニティ供用施設の整備費などです。

基地周辺整備費の中で、飛行場周辺地区定住促進費について、昨年の実績が12件との報告を受けました。今議会では、空き家対策に関する条例も提出されていることから、本助成金のさらなる周知を図るとともに、市外からの転入や、三世帯同居住宅等による加算により、最大110万円助成される点について、広報を通じて市民への周知・展開を求める意見がありました。

■第4回小松空港ターミナルビル基本構想検討会議について

今年度は、基本構想を取りまとめる年となっており、3月3日に第4回の基本構想検討会議が開催されたこと

について報告がありました。会議の内容について、委員からは概ね異論なしで承認されたとのこと。今後の進め方として、県において意見を取りまとめて、基本構想が公表される予定です。

小松空港ターミナルビルについては、小松空港・周辺のにぎわい、県の出先機関も含めた検討を進めてきた訳ですが、南加賀の発展で一番に望む、小松にとって最も重要な取組が、このターミナルビル整備であり、空港周辺整備であることから、これまで求めてきた要望について、県へ強く働きかけ、新たなターミナルビル整備に向けて進めてほしいとの意見がありました。また、防災庁設置についても、小松基地周辺が最も適地であることから、国・県へ引き続き働きかけてほしいとの意見がありました。

他にも、基本構想とは別に、小松・香港便の再開や小松・ソウル便のデイリー運航も始まることから、小松の地へ立ち寄ってもらうような仕掛けづくりが必要ではないかとの意見がありました。

■令和8年度小松基地航空祭の開催期日について

来年度の開催日は、令和8年9月27日(日)に決定し、ブルーインパルス等の展示飛行が予定されているとのことです。

全国から多くの方が訪れる小松の一大イベントであり、しっかりとPRをすることや、駐車場の確保や基地との連携等を行い、協力体制を整えながら、開催に向けて準備してほしいとの意見がありました。

3月定例会の議決結果

■全会一致で議決された議案

	議案名	議決結果
予算案 (14件)	第 4 号 令和8年度小松市介護保険事業特別会計予算	可決
	第 5 号 令和8年度小松市公債管理特別会計予算	//
	第 6 号 令和8年度小松市産業団地事業特別会計予算	//
	第 8 号 令和8年度小松市水道事業会計予算	//
	第 9 号 令和8年度小松市下水道事業会計予算	//
	第10号 令和8年度国民健康保険小松市民病院事業会計予算	//
	第11号 令和7年度小松市一般会計補正予算(第7号)	//
	第12号 令和7年度小松市国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)	//
	第13号 令和7年度小松市公債管理特別会計補正予算(第1号)	//
	第14号 令和7年度小松市産業団地事業特別会計補正予算(第2号)	//
	第15号 令和7年度小松市後期高齢者医療特別会計補正予算(第4号)	//
	第16号 令和7年度小松市水道事業会計補正予算(第4号)	//
	第17号 令和7年度小松市下水道事業会計補正予算(第4号)	//
	第18号 令和7年度国民健康保険小松市民病院事業会計補正予算(第3号)	//
条例案 (9件)	第19号 小松市老朽危険空家除却後の土地に係る固定資産税等の減免に関する条例について	//
	第20号 小松市公共下水道条例の一部を改正する条例について	//
	第21号 小松市地域優良賃貸住宅条例の一部を改正する条例について	//
	第23号 小松市火災予防条例の一部を改正する条例について	//
	第24号 小松市役所支所設置条例の一部を改正する条例について	//
	第25号 小松市職員定数条例の一部を改正する条例について	//
	第26号 小松市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例について	//
	第27号 小松市手数料条例の一部を改正する条例について	//
第28号 小松市スポーツ施設条例の一部を改正する条例について	//	
その他議案 (7件)	第29号 工事請負契約の一部変更について	//
	第30号 市道路線の認定について	//
	第31号 市道路線の変更について	//
	第32号 市道路線の廃止について	//
	第33号 指定管理者の指定の変更について	//
	第34号 辺地に係る公共的施設の総合整備計画の変更について	//
	第35号 専決処分の承認を求めることについて	承認
議員提出議案 (4件)	第 1 号 北朝鮮による日本人拉致問題に対する理解を深めるための広報啓発を推進することを求める意見書	可決
	第 2 号 重度障害者の地域生活を支える制度の充実を求める意見書	//
	第 3 号 巨大災害発生に対する対応体制整備を求める意見書	//
	第 4 号 太陽光発電設備のリサイクル推進及び適正な廃棄処理に関する意見書	//

■賛否が分かれた議案

○は賛成 ×は反対 退は退席 欠は欠席

議案名	会派自民					小松志士の会			自民党こまつ			無党派			議決結果						
	表 靖二	高 野 哲 郎	吉 本 慎 太 郎	梅 田 利 和	新 田 寛 之	東 浩 一	村 中 洋	吉 柴 文 悟	宮 西 健 吉	中 西 肇	濱 口 淳 也	木 村 賢 治	川 崎 順 次	吉 村 範 明		深 田 博 智	橋 本 米 子	片 山 瞬 次 郎	木 下 裕 介	齋 藤 和 美	岡 山 晃 宏
予算案(3件) 第2号 令和8年度小松市一般会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決
第3号 令和8年度小松市国民健康保険事業特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決
第7号 令和8年度小松市後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決
条例案(1件) 第22号 小松市国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決

※南藤陽一議長、岡山晃宏副議長は小松市議会運営規約第4条に基づき、会派に所属していません。南藤陽一議長は採決には加わりません。

活動ピックアップ

※議員が参加した行事等の一部を紹介します。

小松市校下女性協議会 第26回「議員さんと語る会」

開催日 令和8年2月8日(日)

令和8年2月8日に小松市校下女性協議会と小松市議会による「議員さんと語る会」が開催され、岡山副議長及び中西議員、深田議員、吉柴議員の各常任委員会副委員長が参加しました。今回のテーマは「将来介護を必要としない高齢者になるためには」、「小松駅周辺の危険な場所をなくそう」、「全天候型遊び場について」の3つのテーマでワークショップが行われました。日頃から地域や市民の声を聞いている意見とは少し異なり、生活者の目線、女性の目線での鋭い意見が多く聞かれました。今年で第26回を迎えた会ですが、今後も、この会が継続していくことを切に願います。
(深田委員)



小松市名誉市民章贈呈式(中田一於氏を小松市8人目の名誉市民に認定)

開催日 令和8年3月15日(日)

人間国宝である中田一於氏に、このたび小松市名誉市民章が贈呈されました。

九谷焼の伝統技法である釉下彩の分野において、長年にわたり技術の研究と表現の追求を重ね、その卓越した功績は国内外で高く評価されています。

本市出身の作家として、伝統工芸の魅力を広く発信し続けてこられたことは、市民にとって大きな誇りであります。

今回の受章を契機に、地域文化のさらなる振興と次世代への継承が一層進むことを期待いたします。

受章おめでとうございます。
(斎藤委員)



行政視察報告



議会運営委員会

視察先 宮崎県宮崎市、宮崎県延岡市

期間 1月28日(水)~30日(金)

視察項目

【宮崎市】議会のDXについて

【延岡市】政策提言協議会について



議長の活動紹介

<1～3月の主な議長日程>



今年の公務は、元日の令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨犠牲者追悼式を皮切りに、成人式や市内での様々な式典や各種行事等に参加し、議会を代表し、皆様への祝辞等を述べさせていただきました。

今年の干支は午年であります。様々な事業や経済活動が午のごとく力強く前進し、努力が実を結び、新たな挑戦を後押ししてくれる年と言われております。皆様にとってそんな活気のある一年となりますことを心から願っております。

今年度も引き続き、小松市議会、各議員に対しまして、多大なるご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

- 1(木) 令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨犠牲者追悼式
- 10(土) 令和8年小松市消防出初式
- 11(日) 令和8年小松市成人式～二十歳のつどい～
- 1月 14(水) 加賀五市議会議長会 第91回定期総会
- 23(金) 小松基地新成人祝賀行事
- 27(火) 石川県市議会議長会 第152回定期総会
- 31(土) 手をつなぐ育成会 2026年新春のつどい・20歳を祝う会 令和7年度小松市社会教育賞贈呈式
- 2月 9(月) 全国市議会議長会基地協議会 第89回総会
- 23(月) 令和7年度小松市スポーツ栄光賞、スポーツ賞、文化芸術賞授与式
- 3月 16(月) 全国市議会議長会基地協議会 新旧会長挨拶回り
- 19(木) 特別展「銀と彩ー人間国宝《釉下彩》・中田一於の世界」開場式・内覧会
- 26(木) 小松市交通安全標語最優秀作品表彰式
- 29(日) 大韓航空 小松・ソウル便就航20周年及びデイリー化記念式典

6月 定例会のお知らせ 次の定例会は6月8日から6月29日までの22日間です。 ※詳細は議会ホームページをご覧ください。

6月8日(月)	10:00～	本会議	開会・市長説明
16日(火)～18日(木)	9:30～	本会議	一般質問
19日(金)	9:30～	委員会	各常任委員会(分科会)
22日(月)	13:30～	委員会	特別委員会
29日(月)	13:30～	本会議	委員長報告・採決・閉会



小松市イメージキャラクターカブッキー



読者の声をお寄せください

議会だよりをお読みいただいたご意見や感想をお聞かせください。

右記QRコードを読み込んでいただき、「氏名」「連絡先」等必要事項を入力の上、お送りください。



天然温泉・介護付有料老人ホーム **ウエルネスかねの**

20周年記念キャンペーン

- ・新規入居の管理費月額 **3万5千円割引**
- ・夫婦入居引き一方の **管理費無料**



詳細や見学は次までお問い合わせください

小松市金平町ラ 100-1 ☎44-1555 生活相談員 林・山本



サポートネット

日時・5月16日(土)・6月20日(土)・7月25日(土) 9時～11時30分

専門家による無料相談会

会場・小松商工会議所

問い合わせ先:担当 竹内 TEL 0761-22-9990

- ◆法律
- ◆債権回収
- ◆多重債務
- ◆完済過払
- ◆税金
- ◆登記
- ◆不動産評価
- ◆人事・給与
- ◆会社設立
- ◆相続
- ◆事業承継
- ◆農地転用・開発行為
- ◆事業計画
- ◆公的年金 等の

ご相談をお気軽に【秘密厳守】
私たちが相談に応じます。



不動産鑑定士 澤矢 豊伸 TEL0761-21-1122	弁護士 杉本 昌之 TEL0761-24-3633	司法書士 行政書士 田中 一生 TEL0761-48-7040	税理士 行政書士 谷口 勇一 TEL0761-76-5503	弁護士 中西 祐一 TEL076-256-5413	社会保険労務士 畠中 遥 TEL0761-75-7520	社会保険労務士 村井 佳恵 TEL0761-48-7770	土地家屋調査士 行政書士 山崎 豊 TEL0761-20-3175
------------------------------------	---------------------------------	--	---	---------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------	--